

やまばと通信

2018.5.1発行
第 225号
多摩市立図書館
042-373-7955

「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

計画期間 平成30～35年度（2023年度）

基本理念 ～すべての子どもに読書のよろこびを～



学校図書館（諏訪小学校）



ほんともフェスタ 展示
（会場：グリナード永山）



学校図書館司書による
読み聞かせ（瓜生小学校）

子どもを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォンなどの情報媒体の普及で大きく様変わりしています。多くの情報から適切な情報を見つけ出し、主体的に生きていく力を身につけるうえでも「読書」の意義はますます重要になっています。多摩市では第一次計画からの基本理念を継承し、行政、学校、地域、関係機関等の連携のもと、より一層、子どもの読書環境の充実、読書活動の推進に取り組んでいきます。

第三次計画策定における2つの視点

- 1 市立図書館と学校図書館を軸とする読書環境の整備、充実
- 2 第一次、第二次計画から続く課題に対する着実な施策の推進

第三次計画は14の施策に分かれています。14のうち次の5つを重点施策に設定しました。

- 1 蔵書の充実・活用
- 2 学校図書館の環境整備及び機能の充実
- 3 市立図書館の整備、機能の充実
- 4 支援の必要な子どもたちへの取り組みの推進
- 5 担当職員による児童サービス・ティーンズサービスの充実

計画書は図書館ホームページに掲載しています。また図書館での貸出もしています。

（問合せ 本館 子ども読書支援係）

本のリサイクル

図書館では買換えなどにより廃棄した本を「リサイクル図書」として市内の学校や施設、福祉団体などで活用していただいています。

また、保存年限を過ぎた雑誌、受け入れを見合わせた寄贈資料を各館常設のリサイクルコーナーで配布するほか、地域のおまつりやイベントで特設コーナーを設け、市民の皆さんに無料で配布しています。

平成30年度の図書館のリサイクル図書配布イベント（予定）

- ・ 5月 3日（木）ガーデンシティ多摩センターこどもまつり
- ・ 9月22日（土）23日（日）永山フェスティバル

上記のほか

- 10月 東寺方秋まつり、からきだ菖蒲館まつり
 - 11月 ひじり館まつり、豊ヶ丘のびのびまつり
- などでの配布を予定しています。

地域資料のご紹介

～地域資料係より～

「幻の鉄道計画」

かつて、多摩村一ノ宮から津久井郡川尻村に至る全長約16kmを結ぶ鉄道の敷設計画がありました。この鉄道は南多摩郡と津久井郡を結ぶことから、「南」と「津」をとって、南津（なんしん）電気鉄道という名称で、沿線地域の有力者たちが発起人となり、大正13（1924）年12月に会社設立のための協議会を発足しています。鉄道のルートは、一ノ宮から野猿街道をしばらく並行して進み、由木村の東中野から鎌水を経由して、横浜線の橋本・相原間を越えて川尻村に達するものでした。しかし、当初から資金繰りに苦しみ、さらに昭和初期の大恐慌が追い討ちをかける形となって事業運営は一層厳しくなり、工事延期申請を再三出すなど計画は難航し、ついに開通することなく昭和9（1934）年1月、鉄道大臣宛に「会社解散決議認可申請書」を提出して計画に終止符を打ちました。もし、この鉄道が完成していたら、後の多摩ニュータウン計画にも大きな影響を及ぼしていたことが考えられます。

- ・ 『多摩市史 資料編四』（K7213.6 多摩市 1998）
- ・ 『多摩市史 通史編二』（K7213.6 多摩市 1999）
- ・ 『幻の相武電車と南津電車―昭和恐慌で工事中断―』（686.213 サトウマコト 1999）
- ・ 『鉄道未成線を歩く―夢破れて消えた鉄道計画線実地踏査―私鉄編』（686.21 森口誠之 2001）
- ・ 『多摩地方「幻の鉄道敷設計画」』（K7210.05 大坪省三「多摩のあゆみ11号」1978）

知の地域創造を支える新本館を目指して ～図書館本館再整備基本計画検討委員会の進捗状況～

平成30年2月にスタートした検討委員会の第2回目のテーマは、先進図書館の視察。3月7日（水）に浦安市立中央図書館と荒川区の中央館「ゆいの森あらかわ」に行ってみました。サービスと施設を中心に見学し、多摩市の新本館整備に向けて大いに学ぶべきものがありました。

	多摩市	浦安市	荒川区
人口	148 千人	163 千人	214 千人
面積	21.01 km ²	17.29 km ²	10.16 km ²
図書館数	8 館	8 館	5 館
サービスポイント	0 ヶ所	3 ヶ所	2 ヶ所
蔵書冊数	730 千冊	1,189 千冊	850 千冊
うち本館(中央館)蔵書	330 千冊	832 千冊	349 千冊
貸出数	1,719 千点	2,056 千点	1,740 千点
予約件数	480.8 千件	506.8 千件	608.0 千件
市(区)民1人あたり 貸出数	11.6 点	12.6 点	8.1 点
図書館費	304 百万円	333 百万円	493 百万円
うち資料費	50 百万円	101 百万円	83 百万円

※ 多摩市・浦安市「日本の図書館 統計と名簿2016」抜粋

※ 荒川区「平成28年度事業概要」抜粋(区ホームページ)。図書館費は「日本の図書館 統計と名簿2016」抜粋(ゆいの森開館前)

○浦安市立中央図書館

年間資料費約1億円、開架41万冊・閉架42万冊の浦安中央。人口規模や8館での運営と多摩市と似ている部分は多くありますが、中央館の蔵書冊数の差が全体の蔵書冊数の違いとなって現れます。

(現本館：開架10万冊・閉架23万冊)

○ゆいの森あらかわ

平成30年3月に開館1年を迎えた「ゆいの森あらかわ」。年間来館者数は何と70万人を超えます(多摩市立図書館本館はおおよそ20万人)。整備のコンセプトづくりには多摩市と同じくノンフィクション作家の柳田邦男先生が参画されました。図書館を中心に文学館、子ども広場が入った複合施設です。新しい活動と場を学びます。

第3回(3月24日)は、「市民参加型学習会」と題して、前半に講演と報告を聴いて、委員・傍聴者が知見を共有しました。後半は講演等をもとにパルテノン多摩との連携や図書館ネットワーク、サービス等の議論。有意義な意見交換、提案が多くありました。

第4回(4月21日)は、大きなテーマとしては「資料計画」です。これまでの議論を踏まえて、資料の再編や地域資料、資料収集と選書体制などについて議論しました。

ブックスタート ～ 絵本かたりかけボランティア紹介～

ブックスタートとは、「絵本」と「赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動です。赤ちゃんと心ふれあう豊かな時間をすごしてほしいという願いをこめ、健康センターで行われている3～4か月健診で、図書館がお勧めする絵本を1冊差し上げています。

その時に大活躍されているのが、「絵本かたりかけボランティア」の皆さんです。

親しい人からの語りかけは、赤ちゃんにとって、とても嬉しいもの。自然と赤ちゃんに優しく語りかけ、赤ちゃんと一緒に笑顔になれる、そんな絵本の魅力を、保護者の皆さんにお伝えいただいています。

～絵本かたりかけボランティアさん募集中～

ご興味・関心のある方は、図書館本館・子ども読書支援係までご連絡ください。



図書館コンピュータシステムの入替えにより

7月3日から新しいサービスが始まります

○館内OPAC（利用者用端末）のサービスが広がります。

利用者メニューで「読書記録」「お気に入り」を設定できます。

（借りた本の履歴を自分の選択で残すことができるようになります）

○新しいメールサービスが始まります。

・新着図書お知らせメールを受け取れるようになります。

・返却期限お知らせメールを受け取れるようになります。

○ホームページが新しくなります

内容や画面のレイアウトが大きく変わります。

ジャンルで選んで本を探すなど、検索方法が広がります。

利用者メニューでログインすると書影が表示されるようになります。

・詳しくは次号の「やまばと通信」でお知らせします

・6月21日（木）～7月2日（月）のシステム入れ替え期間中の開館・休館については別案内をごらんください。